

記載要領

様式第4の二（第4条、第5条関係）

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		1					
2 タンク専用 室の構造	壁	延焼のおそれのある外壁			床		
		その他の壁			出入口	(しきい高さ cm)	
	屋根				その他		
3 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造	階数		設置階		建築面積	m ²	
	建築物の構造概要						
4 タンクの構造・設備	形状			常圧・加圧 (k P a)			
	寸法			容 量			
	材質、板厚						
	通気管	種 別	数	内径又は作動圧			
						mm k P a	
	安全装置	種 別	数	作 動 圧			
				k P a			
液量表示装置				引火防止装置	有 ・ 無		
注入口の位置		5		6 注入口付近の接地電極		有 ・ 無	
ポンプ設備の概要		7					
採光、照明設備		8		換気、排出の設備		9	
配 管		10					
消 火 設 備		11		警 報 設 備		12	
工事請負者住所氏名		13 電話					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とすること。

2 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造の欄は、該当する場合のみ記入すること。

記載要領

[屋内タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領]

1. 「事業の概要」欄は、事業の内容について具体的に記入する。
2. 「タンク専用室の構造」欄のうち、その他の欄は、タンク専用室の建築面積を記入する。
3. 「建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造」欄は、次により記入する。
 - a 建築物全体が屋内タンク貯蔵所になる場合は、記入しない。
 - b 建築物の一部に設置する場合は、建物全体についての建物構造を記入する。
4. 「タンクの構造、設備」欄は、次により記入する。
 - a 「形状」は、タンクの形状を「角型」、「縦置円筒型」等と記入する。
 - b 「常圧・加圧」は、該当する形態を記入する。
 - c 「寸法」は、当該タンクの寸法を「縦 mm、横 mm、高さ mm」等と記入する。
 - d 「容量」は、「実容量 リットル、空間容積 リットル(%)、容量 リットル」等と記入する。
 - e 「材質、板厚」は、タンクの材質及び板厚を「底板 mm、側板 mm、屋根板 mm」等と記入する。材質が部材により異なる場合は、底板 S S 4 0 0 8 mm 等とする。
 - f 「通気管」は、通気管の種別、数、内径又は作動圧を記入する。
 - g 「安全装置」は、安全装置の種別、数、作動圧について記入する。
(例) プレムアリスト付大気弁 1 基 KPa
 - h 「液量表示装置」は、覚知装置を「自動式液面計」等と記入する。
 - i 「引火防止装置」は、有・無に を付ける。
5. 「注油口の位置」欄は、注油口の位置について「遠方注入口」(別添図面の位置)、「タンク直上」等と記入する。
6. 「注入口付近の接地電極」は、有・無に を付ける。
7. 「ポンプ設備の概要」欄は、ポンプ設備の種別(うず巻きポンプ、ギアポンプ等)、数、固定方法、設置位置について記入する。
8. 「採光、照明設備」欄は、種別(窓、照明)、防爆構造の種別、数を記入する。
9. 「換気、排出の設備」欄は、換気又は排出の別、素材、個数、引火防止網の有無等を記入する。
10. 「配管」欄は、使用する配管の材質、口径、継手方法、外面防食方法を記入する。
11. 「消火設備」欄は、例えば「第3種二酸化炭素消火設備(全域)」、「第5種(粉末A B C 消火器 3.5 kg) × 3 本」等と記入する。
12. 「警報設備」欄は、例えば「加入電話」、「自動火災報知設備」等と記入する。
13. 「工事請負者住所氏名」欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入する。